

国立大学のキャンパスモールの構成に関する研究

正会員 ○ 江連 寛二*
同 安森 亮雄**
同 松浦 達也***

キャンパスモール 国立大学 道路形態
マスタープラン 建物配置

1. 序 大学キャンパスには、歩行者空間や建物を繋ぐキャンパスモール^{注1)}があり、主要な動線や交流のための場になっている。特に国立大学のキャンパスでは、従来年度毎に建物が整備され、キャンパス全体のデザインが乏しかったが、近年キャンパスマスタープランの策定により、建物や広場の関係を中長期計画で捉え直し、キャンパスモールを整備するようになってきている。そこで本研究では、国立大学を対象とし^{注2)}、キャンパスモールの形態と、建物配置、キャンパスマスタープランの記述内容から、キャンパスモールの構成を明らかにすることを目的とする。

2. キャンパスモールの形態 キャンパスモール(以下、モール)には、様々な形態がみられる。例えば分析例(図1)では、正門から直線状にモールが伸び、終点は行き止まりとなっている。こうしたモールの形態について、正門から直接アクセスするか否か、キャンパスを貫通するか行き止まりかを、車道とモールの関係と併せて検討した(表1、2)。モールの形態パターンaは正門から直接アクセスし、行き止まりとなるものである。b-1、2は正門から

直接アクセスし、キャンパスを貫通するもので、キャンパス内で分岐するものが多く(b-2)、歩車分離をするものが該当した。cは正門から間接的にアクセスし、行き止まりとなっているもので、キャンパス内に車道がないものが多くみられた。また、モールの舗装材についても検討した(表3)。

3. キャンパスモール沿いの隣接要素 モール沿いには、様々な要素がみられる。例えば分析例(図1)では、図書館や学生会館、講義棟がモールの終点にあり、広場が点在している。まず、こうした建物用途について整理し、公開性の高い一般利用建物、多数の学生が利用する共用建物、特定の学生が利用する研究建物等に分類した(表4)。また、外部要素についても整理したところ、ピロティや広場が多くみられた(表5)。さらに、キャンパスに隣接する駅が約半数でみられた(図2)。

4. キャンパスマスタープランの記述内容 キャンパスマスタープラン(以下、CMP)には、モールについて言及する記述がみられる。例えば分析例(図1)の「正門

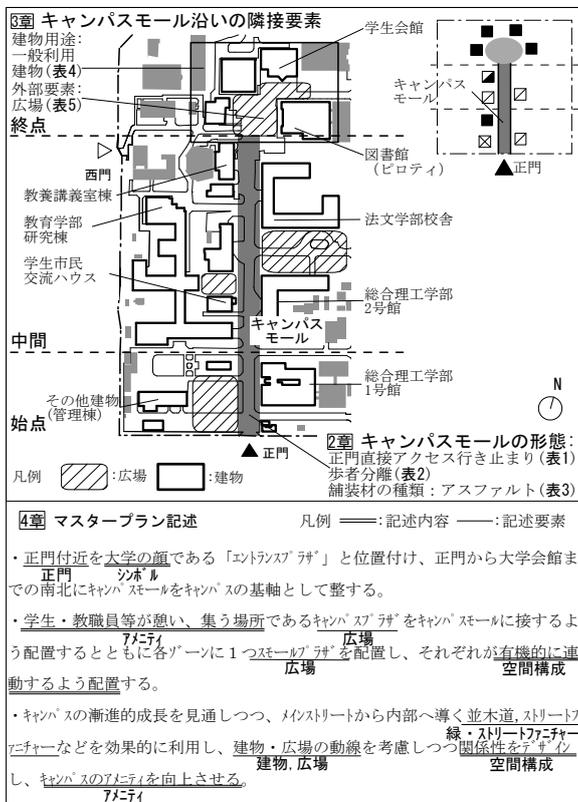


図1 分析例(No. 25 島根大学/松江キャンパス)

表1 キャンパスモールの形態(33キャンパス)

	正門から直接アクセス(25)	正門から間接アクセス(8)
行き止まり	a (24) 共(5)分(6)環(3)無(2)	c (8) 共(3)環(1)無(4)
直線	b-1 (3) 環(1)無(2)	(0)
貫通	b-2 (9) 分(1)環(3)無(2)	(6)
分岐	(6)	(0)

表2 車道とキャンパスモールの関係

	歩車共存(共)		歩車分離	
	分離道路(分)	環状道路(環)	車道なし(無)	(無)
歩道	(8)	(8)	(7)	(10)

表3 舗装材の種類

全て仕上げ材あり	(17)
一部仕上げ材あり	(8)
全てアスファルト	(8)

表4 キャンパスモール沿いの建物用途

一般利用建物(P)	共用建物	研究建物(E)	その他建物(O)
■	図書館 食堂(A)	講義棟(C)	□

表4注) 一般利用建物とは、キャンパス内の大学博物館や、地域連携施設、商業施設といった一般利用が可能な建物を含む。

表5 キャンパスモール沿いの外部要素

建物要素			自然要素		
ピロティ(ピ)	テラス(テ)	パーゴラ(パ)	広場(広)	池(池)	傾斜(傾)
(26)	(17)	(4)	(33)	(5)	(4)

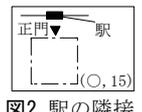


表6 マスタープランの記述内容 (33キャンパス)

内容要素	アメニティ		シンボル				空間構成				
	広場(広)	ストリートファクター(ス)	建物(建)	正門(門)	モール(モ)	広場(広)	緑(緑)	広場の連繫(連)	建物配置(建)	建物デザイン(デ)	地域開放ゾーン(地)
組合	● 広場 (2)		● シンボル建物 (2)						● 建物配置 (11)		
目	● 広場									● 広場の連繫 (18)	

付近を大学の顔である...」という記述では、正門という要素を大学のシンボルとして位置づけている。そこでCMPの記述を内容と要素から整理すると(表6)、アメニティ、シンボル、空間構成といった大きく3つの内容について述べられており、これら全てについて言及するものが多くみられた。

5. キャンパスモールの構成 2章で整理したモールの形態をもとに、隣接要素(3章)の配置とCMPの記述内容(4章)について検討したところ、同じ傾向を持つ5つの類型が得られた(表7、図3)。類型①~③は、正門から直接アクセスし行き止まりのもので、このうち①はモール沿いに広場が点在し、終점에複数の一般利用建物と広場が配置される構成である。CMPで広場の連繋によって公開性の高い終点まで引き込むことが述べられている。②は中間に複数の一般利用建物と大規模広場が配置される構成であり、環状道路をつくり歩車分離をする傾向がみられた。大規模広場を中心とする、モール全体の将来的な広場の連繋について想定している。③はモール全体がグリーンベルト状の広場となり、周囲に一般利用建物が配置される構成である。アイストップとなる建物が軸線を強調し、モールを大学のシンボルとして位置づけている。④は正門から直接アクセスし、分岐してキャンパスを貫通するもので、モール中間の池や傾斜等の地形を中心に、複数の共用建物や広場が配置される構成である。将来的な正門付近の地域開放が計画されている。⑤は正門に配置された一般利用建物や広場を介してモ-

ールにアクセスし、行き止まりとなる構成で、始点から終点へ段階的な公開性をもつ。駅に隣接する傾向がみられ、正門周辺を大学のシンボルと位置づけている。また将来的にキャンパスに新たなモールを設け、モールを中心としたネットワークを拡張することが計画されている。以上の類型をモールの形態と公開性の高い建物の配置に着目して整理すると、①~③は正門から直接アクセスし、モールの奥の行き止まりまで公開される構成、④は正門から直接アクセスし、分岐してキャンパスを貫通するモールの中間が公開される構成、⑤は正門からモールに間接的にアクセスし、終点に向かって段階的に公開される構成であるといえる。

6. 結 国立大学のキャンパスモールの構成を、その形態と建物配置から検討した。その結果、正門から直接アクセスし、モールの奥の行き止まりまで公開性の高い建物が配置される構成、正門から直接アクセスし、分岐するモールの中間の広場を中心に公開される構成、正門付近に広場と駅等があり、間接的にモールにアクセスし、終点に向かって段階的に公開される構成という3つの傾向がみられた。また、それぞれの構成に特徴的なキャンパスマスタープランの記述内容がみられた。

注1) モールとは、一般に自動車交通を分離し、歩行者の安全性と快適性を重視して、植栽、舗装、ストリートファニチュアなどを設計した空間をさす(建築大辞典、彰国社)。本研究では、大学キャンパス内の歩行者道路のうち、マスタープランにキャンパスモール、主軸、プロムナード等の表記のあるものをキャンパスモールとしている。
2) 本研究では、全国の国立大学のキャンパスのうち、キャンパスマスタープランを入手でき、キャンパスモールについて記述があった29大学33キャンパスを資料とした。

表7 キャンパスモールの構成類型

No	大学名/ キャンパス名	形態	隣接要素						マスタープラン記述			公開性の高い建物の配置	2章 3章				
			始点		中間		終点		アメニティ	シンボル	空間構成						
22	大阪/豊中	共	E ^t	A	C ^t	E ^t	広	P ⁿ	広傾池	○	広ス緑	モ広建	建	①	a 正門直接アクセス 行き止まり	b 正門直接アクセス 貫通	c 正門間接アクセス 行き止まり
18	富山/五福	共	P ^t	広	A	C	E	広	P ⁿ	E	広	○	広				
25	島根/松江	分	P	広	A	C	E	広	P ⁿ	○	広	ス緑	門	連建	③	e 正門間接アクセス 行き止まり	
24	鳥取/鳥取	無	P	○		C	E	広	A ⁿ	○	広	○	広	連建			④
28	佐賀/本庄	共	P	E	P ^t	A	C	E	広	P ^t	E ^t	○	広	建地	⑤	g 正門間接アクセス 行き止まり	
16	横浜国立/常盤台	環	A	○	傾	P ^t	○	○	○	傾	○	広	ス	連建			⑥
21	三重/上浜	環		○	広	A ⁿ	C	E ^t	広	E ^o		○	広	デ	⑦	i 正門間接アクセス 行き止まり	
31	宮崎/木花	環	C ^t	E	A ^t	C	O	○	○	○	○	広	ス	連地			⑧
6	群馬/荒牧	分		○	広	A ^t	C	E	広	E ^t	○	広	○	連地	⑨	k 正門間接アクセス 行き止まり	
3	東北/川内	共	A	E	広	P ^t		○	○	○	○	広	ス	連地			⑩
2	帯広畜産/帯広	分	P ^t	○	広	A ^t	○	○	○	○	○	広	ス	連地	⑪	m 正門間接アクセス 行き止まり	
20	名古屋/東山	無	P ^t	E	○	○	E	○	○	○	○	広	ス	連地			⑫
	他(4)														⑬	o 正門間接アクセス 行き止まり	
4	筑波/筑波	環	E	池	A ⁿ	C	E ^t	○	○	○	○	広	ス	連建			⑭
33	琉球/千原	環	E, O		A ⁿ	C	E ^t	○	○	○	○	広	ス	連地	⑮	q 正門間接アクセス 行き止まり	
26	広島/東広島	環	E	傾	A ⁿ	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地			⑯
15	電気通信/調布	無	P	○	広	A ^t	C ⁿ	A ^t	○	○	○	広	ス	連地	⑰	s 正門間接アクセス 行き止まり	
	他(5)																⑱
11	東京/駒場	無	P ⁿ	E ^t	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地	⑲	u 正門間接アクセス 行き止まり	
14	東京工業/大岡山	無	P ⁿ	A ^t	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地			⑳
7	群馬/桐生	無	P ⁿ	○	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地	㉑	w 正門間接アクセス 行き止まり	
1	北海道/札幌	無	P ⁿ	○	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地			㉒
32	鹿児島/本庄	共	P	C	E ^t	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地	㉓	y 正門間接アクセス 行き止まり	
27	九州工業/戸畑	環	P ⁿ	○	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地			㉔
9	千葉/西千葉	共	P ⁿ	A	○	○	○	○	○	○	○	広	ス	連地	㉕	aa 正門間接アクセス 行き止まり	
	他(1)																㉖

表7注) 表中の記号は表1-61に準じる。同じ用途の建物群にはnをつけることとする。

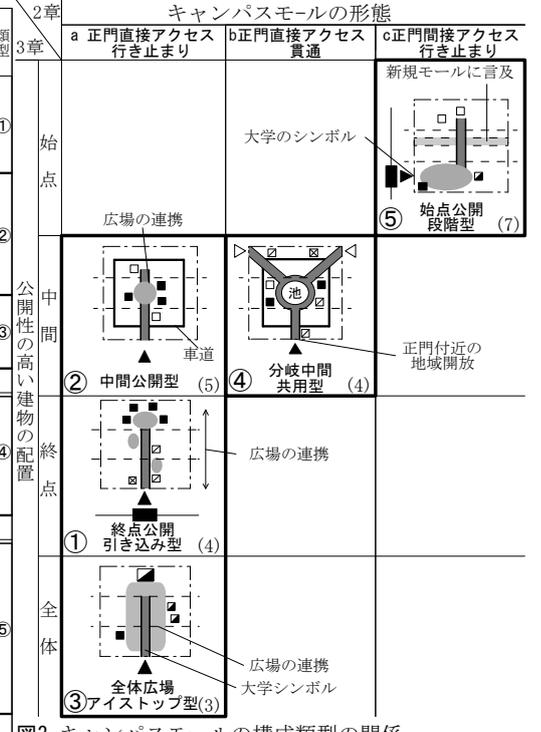


図3 キャンパスモールの構成類型の関係

* 宇都宮大学大学院工学研究科 大学院生 * Graduate Student, Graduate School of Eng., Utsunomiya University
 ** 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 博士(工学) ** Assoc. Prof., Dr.Eng., Graduate School of Eng., Utsunomiya University
 *** 宇都宮大学大学院工学研究科 博士後期課程 修士(工学) *** Doctoral Course, Graduate School of Eng., Utsunomiya University